



**2011 AUTOBACS SUPER GT  
SUGO GT 250km RACE  
Race Report**

▽ 7月30日(土)～ 7月31日(日) スポーツランド SUGO (宮城県) | コース全長 : 3,704m

・ 7月30日(土)

公式練習 08:25 - 10:10 | 公式予選一回目 12:25 - 13:10 スーパーラップ予選 14:30 - | 入場者数 : 9,200 人 |

・ 7月31日(日)

フリー走行 09:10 - 09:55 | 決勝 14:00 Start [68 Laps / 251.889408km] | 入場者数 : 27,000 人 |

**D'STATION KeePer SC430**



Drivers	Qualifying	Final
脇阪寿一 / アンドレ・クート	8位	リタイア



前戦マレーシアでの戦いから一か月、国内に SUPER GT が戻って来た。今年のスポーツランド SUGO でのレースは、東日本大震災の被災地での開催という大きな意味合いを持つため、感慨深い幕開けとなった。SUPER GT のオーガナイザーG アソシエーションが、被災者 500 人をゲストとして招待するなど、東日本大震災の復興支援大会として位置づけられているこの大会を象徴される活動があちこち

らで行われた。脇阪自身も東日本大震災の復興支援プロジェクト“SAVE JAPAN”を立ち上げ、精力的に活動してきた訳だが、今回脇阪は、東北の子どもたちに、普段よりお世話になっている ABC-MART さんのご協力のもと、自分の気持ちを込めたリストバンドを用意し、自らが子どもたちに配った。

## 7月30日(土)

| 公式練習 08:25 - 10:10 | 公式予選一回目 12:25 - 13:10 スーパーラップ予選 14:30 - | 入場者数 : 9,200 人 |

○公式練習 | タイム 1'30.392 | 順位 : 11 位 | 天候 : 雨 | コース : ウエット | 気温 / 路面温度 開始時 : 23 度 / 25 度 終了時 : 22 度 / 24 度

前戦セパンラウンドでの悔しい思いを晴らすべく、待ちに待った菅生ラウンド。しかし天候は、朝からあいにくの雨。ウエット宣言が出される中脇阪からコースイン。ウエットタイヤの評価とクルマのセットアップを軸に、精力的に周回を重ねる。その後、さらに雨量も増し、クート選手にドライバー交代するも赤旗中断となってしまう。走行時間残り 10 分で再開したが、満足した走行は全くできず、レースウィークは、慌ただしいスタートとなった。



### -脇阪寿一のコメント-

「フリー走行では、ウエットで鈴鹿テストに持ち込んだセットをアジャスト。クルマはとても速くなっている。ポテンシャル的には9番手くらいのタイム（は出ていたはず）。今回の菅生に向けて、メカニックを強化したこともあり、トラブルがなくレースウィークのスタートを切れたことがとてもうれしい」

### ○公式予選一回目

| タイム 1'17.321 | 順位 : 10 位 | 天候 : 雨 | コース : ウエット | 気温 / 路面温度 開始時 24℃ / 27℃ 終了時 22℃ / 23℃ |

今回の予選方式もスーパーラップ方式が採用された。ドライコンディションの中、脇阪からコースイン。



脇阪がドライブする D'STATION KeePer SC430 は 2 番手のタイムを刻み、予選通過基準タイムをクリアするためにクート選手へドライバー交代。しかし、難しい路面コンディションの中 GT300 クラスの車両がクラッシュしたため、このセッションでも再び赤旗中断となってしまう。結果、クート選手は基準タイムをクリアできないまま、GT300 クラスとの混走セッションは終了した。

GT300 クラスの占有セッションをはさみ、10 分間の GT500 クラス占有セッションが始まった。本来脇阪がアタックする予定であったが、このセッション中にクート選手が基準タイムをクリアする必要があった為、脇阪は待機。クート選手がニュータイヤを装着してコースイン。基準タイムをクリアするものの、トラフィックに引っかかり、混走セッションで脇阪が出したタイムを上回る事は叶わず。結果、脇阪がマークした 1'17.321 が D'STATION KeePer SC430 の公式予選一回目のタイムとなり、10 番手でスーパーラップ進出を果たした。

#### ○スーパーラップ予選

| タイム 1'32.960 | 順位: 10 位 | 天候: 雨 | コース: ウェット | 気温/路面温度 開始時 20℃/24℃ 終了時 20℃/23℃

トップバッターで走行する D'STATION KeePer SC430。今季二度目のスーパーラップ進出。天候はさらに悪化し、ヘビーウェット。雨でコースに留まるのも危うい状況下、脇阪がアタック。タイムは 1'32.960 とコンディションの悪さがうかがわれる。スーパーラップ進出車両 10 台すべてのアタックが終わった段階では、最終的に 2 つポジションをあげ、明日の決勝は 8 番手からスタートすることとなった。



#### -脇阪寿一のコメント-



「予選一回目のドライタイヤでのアタックは、途中他車に引っかかってしまったものの、クルマのポテンシャルが上がっており 2 番手と好タイムで手ごたえは十分。スーパーラップは、ヘビーウェットの状態でドライブを楽しむまでに至らず、8 番手スタートとなった。明日はぜひドライで勝負したい。今日一日、メカニカルトラブルもなく、スタッフも精一杯頑張ってくれているので、そのみんなの頑張りに報いる走りをしたい」

に報いる走りをしたい」

7月31日(日)

| フリー走行 09:10 - 09:55 | 決勝 14:00 Start [68 Laps / 251.889408km] | 入場者数 : 27,000 人 |

○フリー走行 | タイム 1'27.760 | 順位 : 8 位 | 天候 : 雨 | コース : ウェット | 開始時 : 気温 21℃ / 路面温度 22℃ 終了時 : 気温 21℃ / 路面温度 23℃

深夜に降っていた雨は朝にはあがったが、決勝日の朝のコースコンディションもウェット。クート選手からコースインし決勝セットを確認しながら周回を重ね脇阪にドライバー交代。タイヤ交換、ドライバー交代などの決勝シミュレーションを念入りに確認し、走行を終えた。

決勝セットは十分な速さを確認できたので、あとはドライコンディションでレースを戦えることを祈るのみだ。

○決勝 / 46 Laps / 254.932 km

| 順位 : リタイア | ランキング : 15 位 | 天候 : 曇 | コース : ドライ | 気温 21℃ | 路面温度 22℃ |

空は曇天ながらも雨は降ることはなく、どうにか決勝まで天候はもった。決勝前に多少雲が厚くなり、あたりが暗くなるなど、雲行きが怪しかったが、終始ドライコンディションでレースは行われた。



スタートドライバーは、クート選手。ローリングスタートにより、熱戦の火ぶたが切って落とされた。このサーキットはコース全域にわたってコース幅が狭いのだが、1コーナーは混乱もなく通過。2周目には早くも17号車をパスし、ポジションを1つあげ、続く3周目には36号車を捉え6番手にポジションアップ。しかし、タイヤの摩耗が激しく、後続を抑える事が出来ず10番手までポジションを落とし

てしまう。チームは予定より早めに脇阪へドライバー交代することを決断し、26周目にピットイン。

これまでの戦いでピットワークに不安があったチームだが、今回はミスなくタイヤ交換・給油作業を終え、ピット作業時間も27秒とまずまずのタイムで脇阪をコースに送り出した。

ドライコンディションでのクルマのポテンシャルは確認できていたので、ここから脇阪の追い上げが期待される。35周目、脇阪は17号車を射程に捉え、バックストレートエンドで仕掛けるも、17号車が予想外に早くブレーキング。それを避けようとした35号車の左フロントが17号



車の右リアアンダースポイラーに接触し、ラジエターを損傷してしまう。脇阪は緊急ピットインを余儀なくされ、メカニックが作業するもコース復帰は断念。無念のリタイアとなった。

-脇阪寿一のコメント-

「今回のレースに向けてチーム体制が強化され、これまでの不安をだいぶ取り除くことができた。自分はそれに応えるべく、前に行く為にベストを尽くした。塚越選手のブレーキングのタイミングをはかって、自分なりに走行していたつもりだが、想定外にブレーキが早く、後続の自分が追突するという形になってしまった。彼のクルマの牽引フックにラジエターがヒットしてしまい水漏れ。何はともあれ、自分のようなベテランがやってはいけないミスであるので反省している。攻めた結果であるとポジティブに捉え、次また頑張ります」



今回は「リタイア」という結果で終わった。悔しい思いをしたが、脇阪自身は素直に自分のミスと認めている。反省材料は、次への前進の「糧」となる。そして、メカニックもここへ来て、歩みは小さいものの一歩ずつ前進している。脇阪もドライビングのみに集中することができる環境がようやく整ってきた。スタッフ全員とドライバーの力が総合力となって真価を発揮する日も近いであろう。その戦いぶりを、ぜひ応援そして期待して欲しい。

次戦は、8月20-21日、鈴鹿サーキットにて開催される。